



Contents

新たな防災気象情報について P.1

適応四方山話 —全国的に水不足が心配です— P.2

適応ビジネス最前線 —イデキョウホーム— P.3

環境フェスタ“もったいない”2026in ふじえだ P.4

新たな防災気象情報について¹⁾—気象の警報などが大きく変わりました—

大雨などにより災害が発生する危険性が増した際に、各自治体は「避難情報に関するガイドライン」²⁾に基づき、住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、5段階の警戒レベルを明記して避難情報を提供しています。この警戒レベルは、気象庁が発表する警報などの防災気象情報を参考にして決められています。

避難情報が出た場合、住民は警戒レベルに応じて避難行動をとることとされており、防災気象情報を見て避難するか判断しますが、現在の情報では避難するタイミングが分かりづらいという課題がありました。

そこで、気象庁は令和6年6月にとりまとめられた「防災気象情報に関する検討会」の提言³⁾を踏まえ、令和8年5月29日から新たな防災気象情報の運用を開始しました。

例えば、これまでの大雨警報は「レベル3大雨警報」という名称に変更となり、レベルの数字と一緒に情報が伝えられま

す。また、レベル4に相当する情報として「危険警報」が新たに発表されること、これまでの洪水警報は大雨の予報・警報と一体化するなど、防災気象情報が大きく変わりました。

自治体から警戒レベル4避難指示や警戒レベル3高齢者等避難が発令された際は速やかに避難行動をとってください。また、自治体から避難指示等が発令されていなくても、警戒レベル4や警戒レベル3に相当する防災気象情報が発表された際には、キキクル⁴⁾や河川の水位情報等を用いて自ら避難の判断をしてください。

※本記事は、気象庁ホームページ「新たな防災情報について」の内容を引用して作成しました。

- 1) 気象庁：新たな防災気象情報について（令和8年～）
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/keiho-update2026/index.html>
- 2) 内閣府：防災情報のページ
https://www.bousai.go.jp/qukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/
- 3) 気象庁：防災気象情報に関する検討会
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/shingikai/kentoukai/bousaikishoujouhou/bousaikishoujouhou_kentoukai.html
- 4) 気象庁ホームページ
<https://www.jma.go.jp/jma/>

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

新たな防災気象情報（令和8年5月29日～）¹⁾

今年、全国各地で水不足が心配されるようなニュースが流れました。静岡県内は大丈夫なのかと思い、ゴールデンウィークに佐久間ダムを訪れましたが、直前の降雨で水位は回復していたようです。

【巻頭写真】放水中の佐久間ダム（2026.5.3）

全国的に水不足が心配です

昨年から今年にかけて、全国各地で水不足が深刻であるとの報道がされました。このままでは生活に支障が出てしまうのではないかと心配されますが、実際どのような状況なのか少し調べてみました。

観光地にある湖が干上がっている

ゴールデンウィーク前の報道番組で河口湖の水位低下で観光ボートが営業できないことや華厳の滝の水量が激減したことなどのニュースが放送されていました。

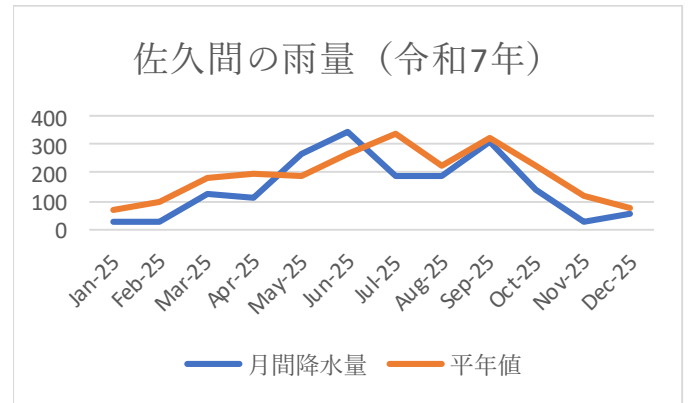
山梨県富士河口湖町のホームページにある河口湖の水位情報⁵⁾を見ると、河口湖の水位が約4m低下していました。また、栃木県のリアルタイム雨量河川水位観測情報⁶⁾を見ると、中禅寺湖の水位が低下している影響と思われるが、華厳の滝の水量を調整する中禅寺ダムの貯水量が0の状態が続いていました。

静岡県は大丈夫？

本県水資源課のホームページ⁷⁾によると、天竜川水系では令和7年12月2日から令和8年4月10日までの130日間、大井川水系では令和8年3月19日から4月3日までの15日間、取水制限が行われていました。また、本県農地計画課及び水道企画課の記者提供資料⁸⁾によると、都田川水系では令和8年2月20日から4月8日までの48日間、太田川水系では令和8年1月27日から4月9日までの73日間、取水制限が行われていました。

このように、本県でも水不足が心配されるような状況が発生していました。

- 5) 山梨県富士河口湖町ホームページ
https://www.town.fujikawaguchiko.lg.jp/ka/info.php?if_id=43
- 6) 栃木県：とちぎリアルタイム雨量河川水位観測情報
<https://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/index.asp>
- 7) 静岡県水資源課：過去の取水制限の記録1（天竜川、大井川）
<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/suido/suishigen/1002658/1018051.html>
- 8) 静岡県：記者提供資料
<http://www2.pref.shizuoka.jp/all/kisha.nsf/webDateView>
- 9) 気象庁：気候変動監視レポート
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/monitor/index.html>
- 10) 気象庁：各種データ・資料
<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>
- 11) 文部科学省及び気象庁「日本の気候変動2025」より引用
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>



浜松市天竜区佐久間町の月別降水量（令和7年）¹⁰⁾

気候変動の影響について

気象庁の気候変動監視レポート⁹⁾によると、令和7年は東日本太平洋側では冬と夏から秋に低気圧や前線の影響を受けにくかったため、年降水量はかなり少なかったことが報告されています。

本県の状況について、特に取水制限の期間が長かった天竜川水系の佐久間ダム周辺の雨量の状況について、気象庁公表データ¹⁰⁾を用いて調べてみました。令和7年の各月の降水量を平年値と比較すると、5月、6月を除き平年を下回っていました。

ちなみに、天竜川水系は毎年のように取水制限を行っていますので、過去30年の雨量の変化に傾向があるのか調べてみましたが、年降水量は多い年もあれば少ない年もあり、各月の降水量の推移や年間の雨が降らなかった日数を比較してみても明らかな傾向はありませんでした。

ダムの水不足は水使用量の変化（周辺人口や事業所数の影響等）も考慮する必要がありますので、単に降水量が少ないことだけが原因ではありませんが、今年1月も極端に雨量が少なかったこともありますので、今回の水不足は昨年からの続いた少雨が要因になっていることが示唆されます。

今後、温暖化が進むと年最大日降水量が増加する一方で、日降水量1.0mm未満の日も増加し、雨の降り方が極端になると予測されています¹¹⁾。大雨による災害発生も心配ですが、ゴールデンウィーク以降も雨が降らない日が続いていましたので、今年は雨がちゃんと降って、水不足にならないことを願うばかりです。



気候変動に対応しながら新たなビジネスを展開したり、自社の製品やサービスにより適応を推進している事業者を大学生がインタビューします。

今回は、富士地区で70年以上にわたり住宅に関わる仕事をされ、高機能・健康住宅の普及促進を通じて、SDGsに積極的に取り組んでいるイデキョウホーム株式会社代表取締役の井出克広さんにお話を伺いました。

－ 常葉大生が探る－ 適応ビジネス最前線

ZEH住宅を建てるうえで、特に力を入れている工夫や他社との違いは何ですか？

ZEHとはネット・ゼロ・エネルギー・ハウスのことで、1年間の消費エネルギーよりも住宅で作ったエネルギーの方が多く、又は差がゼロになる住宅のことです。弊社では、このZEH住宅を実現するために「高断熱」に特に力を入れています。住宅の断熱性能が低いと冷暖房のエネルギー消費が増えてしまいます。そのため、「富士産 eco 断熱」という弊社の自社工場で作る断熱材や、「超高断熱トリプルガラス」などといった製品を使っています。これにより、北海道レベルともいわれる高い断熱基準を標準仕様として採用し、省エネ性能の高い住宅づくりを行っている点が他社との大きな違いです。

富士産エコ断熱を開発した経緯を教えてください

25年ほど前、暖かな家は健康に繋がるため様々な断熱材を試しながら家づくりを行っていました。その中でセルロースファイバーという米国から輸入した新聞由来の断熱材を使用したところ、暖かさに驚きました。そこが始まりで、富士市は紙のまちなので地元で出来ないかと試行錯誤し、現在では暖かで防音効果も高いと施主様から好評です。

自社工場で作る富士産エコ断熱は回収された新聞古紙を細かく刻み、防火のためホウ酸などを混ぜ込んで作っています。自然素材なので健康面の心配もありません。

全館空調のMaHAt（マッハ）システムについて教えてください

MaHAt（マッハ）システムは、市販のエアコン1台を利用して家全体の温度を管理する全館空調システムです。一般的な住宅では部屋ごとにエアコンを設置しますが、MaHAtシステムでは家中に巡らされたダクトを通して各部屋や床下、屋根裏までエアコンの空気を送り、住宅全体を快適な温度に保つことができます。1台のエアコンで家中賄うことができるため、使用状況によっては部屋ごとに設置する場合より電気代が安くすむこともあり得ます。

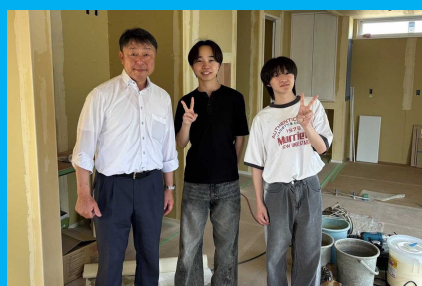
おひさまエコキュートについて

太陽光で作った電気を優先的に使い、昼間にお湯を沸かす給湯器です。従来の夜間に沸かす給湯器と違い日中に余った電力を消費できるため光熱費を節約できます。太陽光発電の余剰分を売るより自家消費するほうがお得な時代になっています。蓄電池がない住宅ではお湯として電気を捨てずに自家消費率を高められますし、蓄電池がある場合でも太陽光が多い日はすぐに充電がいっぱいになるので蓄電池に収まりきらない分を有効活用できます。特にここ静岡県は日照時間が長く、日本の中でもZEH住宅を建てるにはうってつけの場所なのでぜひおすすめしたいです。

イデキョウホーム(株) <https://www.idekyo.com/>

インタビューを終えて

常葉大学経営学部 林ゼミナール



3年 猪原 瑞生

イデキョウホームさんの企業訪問を通じて、環境と住む人への深い情熱を肌で感じました。特に印象的だったのは施工中の住宅での体感で、外の暑さが嘘のように室内は涼しく、独自の「富士産エコ断熱」の高い性能と効果を身をもって実感できました。また、住環境への妥協なき姿勢に深く感銘を受けました。

3年 市川 陸人

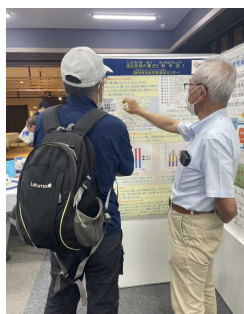
今回のイデキョウホームへの企業訪問を通じて、環境に配慮しながら快適な住まいづくりを追求していることがよく分かりました。特に、自社工場で生産している富士産 eco 断熱やトリプルガラスなど断熱に対するこだわりや ZEH 住宅を実現させるための努力が伝わってきました。また、MaHAt システムによって家庭用エアコンで家全体が快適になっている仕組みに感動しました。今後自分の家を作る際には、今回の知識を活かしてこだわりのある家づくりをしていきたいです。

センター活動報告 今年も好評！～気候変動適応策を学ぶ釣りゲーム～

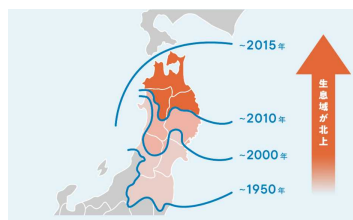
令和8年5月30日（土）、「環境フェスタ "もったいない"2026 in ふじえだ」に出展しました。恒例となったこのイベント、今年も多くの方にチャレンジしていただきました。

参加者はまずガチャガチャを回し、カプセルの中に入っているカードを取り出します。カードには気候変動に関わるお題が書かれており、そのお題の適応策となる「ふじのくに気候変動適応アクションカード」をプールの中から3枚、釣り上げるゲームです。今年には「暑さ」、「異常気象による災害」に加え、「虫による健康被害」を新たに取り上げました。

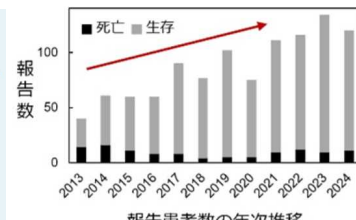
気温の上昇により蚊やマダニなどの発生時期が長くなっていることに伴い、その分布域も拡大しています。ヒトスジシマ蚊は生息域の北限が年々、北上していることが報告されています¹²⁾。また、マダニの媒介する重症熱性血小板減少症候群の報告患者数は上昇傾向にあり¹³⁾、これまで以上に虫による健康被害には注意が必要です。ゲームを体験した参加者からは、「虫除けスプレーをする」、「草むらで遊ぶ時は、長そでを着る」、「危ない虫に刺されたら、がまんせず大人に言って病院へ連れて行ってもらう」といった適応策が聞かれました。



イベントの様子



ヒトスジシマ蚊の北限の推移¹²⁾



報告患者数の年次推移
SFTSの報告患者数¹³⁾

今年には志太地区で実施した暑熱環境調査の結果もポスターで紹介しました。参加者の方は熱心に耳を傾けてくださり、地域における暑さの特徴や熱中症対策について理解を深めていただくことができました。

今後も、このように楽しみながら学べる場を通じて、気候変動適応の考え方を県民の皆様幅広く伝えてまいります。

毎年、毎年の
〇年に一度の災害……って
しょっちゅうじゃない？

あつ
そとは暑すぎて、
あそぶのもこわい。

はる ぶゆ
春でも冬でも、
虫に刺される。

- ・災害はいつ来るかわからないので、ふだんから家族で話し合う
- ・たくさんプールへ！！
- ・植物があるところは虫が嫌う植物を使う

各お題とゲームの感想（抜粋）

- 12) 気候変動適応情報プラットフォーム：ヒトスジシマ蚊の分布拡大について
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/everyone/15action/action13.html>
- 13) 感染症情報提供サイト：マダニ対策、今できること
<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/tick-borne-diseases/tick-prevention/index.html>

編集後記



静岡県気候変動適応センター Newsletter 第10号

- ◇ 前任の異動に伴い、今号から担当が替わりました。これまで同様に皆さんに興味を持ってもらえるような内容を目指しますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- ◇ 今号から表題に本センターのロゴマークを載せましたが気づきましたか？一目で静岡県の気候変動適応センターだと分かるように富士山をあしらったデザインになっています。
- ◇ 新たな防災気象情報の運用が始まって直ぐに台風6号の接近があり、新しい警戒レベル付きの気象情報が頻繁に発表されました。避難を判断する重要な情報ですので、普段から家族の中で防災情報が出たときの避難場所や避難方法を話し合っておいた方がいいですね。

- ◇ インタビュー後、井出社長に色々なモデルハウスを案内していただきましたが、どの家も外の熱を感じず、快適に過ごせることを実感しました。
- ◇ (常葉大学林信濃教授)「地元の建材を積極的に使用したり、製紙業で有名な富士市の古新聞などを利用して自社による断熱材を製造したり、イデキョウホーム様が地元とともに歩んでいくという姿勢がうかがわれました。太陽光発電などは静岡県にに適した環境であることを踏まえ、気候変動に適応した住宅を益々進化させていただきたいと思いました。」
- ◇ 環境フェスタにはたくさんの方が来場されました。このイベントを通じて、参加したみなさんが環境問題や気候変動適応のことを考えるきっかけになればいいなと思いました。



発行：静岡県気候変動適応センター（静岡県環境衛生科学研究所 環境科学部内）
 〒426-0083 静岡県藤枝市谷稲葉 232-1 TEL: 054-625-9131 / FAX: 054-625-9142
 URL: https://kaneiken.jp/center_top

